資料１：報告資料

（１）前回議論の整理

資料1

1　第４回委員会意見の整理

整備パターンを絞り込むにあたって様々な意見があった。

分類	意見の概要	備考
災害対応	□ 今回の風水害を教訓にして、清水庁舎における全国から集まる支援物資への対応などを考えていくべき。（石垣委員）	
庁舎のスペース	□ 今回の災害を受けて、有効スペースがあるものを減築することはあまり特策ではないと考える。（石垣委員） □ 災害時のスペース（寝泊りなど）の確保について、平時の使い方を含めて考える必要がある。（伊東委員、石垣委員） □ 庁舎の「コンパクト化」について、何が何でも小さくすればいいという意味として誤解されないようにすべき。（伊東委員）	
整備パターンの評価に関する留意点	□ 公共交通機関の利便性について、JR清水駅と現在地ではJR清水駅の方が評価が高いと思う。区民のカバー率を考えるのであれば人口に対する公共交通のカバー率について、差がないことを示す必要がある。（黒瀬委員） □ 案1・2については、現計画との違いとして、移転先候補地の敷地が手狭になったこと、移転した場合の現庁舎の跡地利用のめどが立たないことなどが懸念される。案4については、改修しても性能は新築と同様にならないことを理解した上で、改修のメリットを明確にする。現庁舎への愛着については、その意義について十分に共有すること。（加藤委員）	
案2の利点（旧東口広場へ移転）	□ 必要機能を備えた庁舎を効率的に整備するという観点から、改修よりも建替の方が設計の自由度が高い。更に、近隣の市の施設や新病院等との連携により、エリアの中での集積のメリットを活かせる。（牛場委員）	
案4の選択理由（現庁舎の改修）	□ 市として、人・物・資金といった内部資源や移転建替に関わる外部環境が十分に整っていないと判断する場合には、次善策として、整備に最適なタイミングを見極めるために、一時的な改修を行うことも必要。（牛場委員） □ 災害の頻発やDXへの対応など、様々な環境変化の中で、今の時点で最適かつ長期にわたり市民から愛される庁舎を作ることは難しい。今はドラスティックに変えていく時期ではないと感じる。（小豆川委員） □ 清水のまちは大きく変わっているところであり、社会情勢や環境の変化等に対応するため、イニシャルコストの安価な改修を選択し、15年後、20年後に再検討すべき。改修は現庁舎に対する市民の愛着に最も応えることができることに加え、本庁組織の配置についても、集約のタイミングを考慮して判断できる可能性がある。（関委員） □ 清水のまちが大きく変わっていく中で、いたずらに移転建替や減築などをせず、今の場所で設備・機器の必要な機能のみを更新し、短めの耐用年数とした上で、10年ぐらい経過した段階で、もう一度見直すことがよい。改めて見直すことで選択肢の幅も広がる。（伊東委員、田宮委員） □ 場所は現位置の方がよい。経済情勢や市が現在抱えているインフラ整備のことを考えると、建替という選択はなかなか厳しい。まだ40年ちょっとしか経っていない現庁舎を有効活用すべき。（石垣委員） □ これから清水駅東口のエリアは都市基盤も含めて大きく再整備される可能性が高い。都市基盤整備が進めば現在のような手狭な土地に無理をして建てるのではなく、最適な位置が出てくる可能性がある。（黒瀬委員）	

資料1

1　第４回委員会意見の整理

分類	意見の概要	備考
市民への説明	□ 前回の検討委員会では、委員の多くが清水駅東口に移転すべきだという議論であった。市民に対しての説明として、どのような外部環境が変わって、改修することが適切だとなったのかを、きちんと示すべき。その時々で方針が変わっているのではないという説明が重要。（黒瀬委員）	
清水庁舎の位置に関する評価、判断	□ これまでも現在地の利便性に問題があるという意見はなく、これを活用するという判断。（田宮委員、恒川委員長） □ 将来的には江尻地区に集約することも考えていくべきだが、日の出地区も現在再開発が進んでおり、その中間に基幹的な建物があった方がまちの賑わいを取り戻すことに大きく寄与していくのでは。一か所に都市機能を集中させるのでなく、江尻と日の出を繋ぐウォーターフロントの幅を持った位置として市役所があり続けることが大事。（石垣委員） □ 現在の人口規模や、もっと長期目線で見た場合、元々の2つのまちの中間地に庁舎が位置するという発想が、これからの50年、100年を見た時に本当に適切なのかどうかは考えるべき。（黒瀬委員） □ 中長期的な行政拠点をどこに置くのかというのは、この委員会だけで決められることではない。総合計画や都市マスタープラン、立地適正化計画の策定過程で様々な定量的な判断のもとで実施されてきた背景がある。（黒瀬委員）	
改修案の考え方	□ 改めて庁舎移転のタイミングを検討するという観点から、長期間使用するための改修は好ましくない。比較的短期間の使用を目的とする改修により、防災機能の確保や市職員がきちんと快適に執務ができる、行政サービスの提供を支えるための空間を作るべき。（黒瀬委員） □ 現在の建築技術では、場合によっては新築に損色ないような改修が可能になっている。そのため、これからの行政サービス・市役所機能にふさわしい、市民の新しい愛着に繋がるような庁舎を改修でも実現できる可能性がある。あと30年、40年使うぐらいの改修も大きな投資をせずにできるのではないか（ただし、それが無駄だという判断もあるため、精査は必要）。（恒川委員長）	

資料1

2　清水庁舎整備検討委員会の検討スケジュール（R4.12.12時点）

6月1日	第1回委員会	・現時点で想定される整備パターンと評価項目（R3年度報告）の確認、質疑応答
8月1日	第2回委員会	・「行政サービス拠点」「まちづくり拠点」のあるべき姿についてワークショップ ・ワークショップを踏まえ、整備パターンと評価項目についての議論
8月31日	第3回委員会	・各整備パターンの評価
11月18日	第4回委員会	・整備方法・整備場所の検討
12月12日	第5回委員会	・新たな方針（案）【整備方法・場所】の決定
調整中	第6回委員会	・パブコメ意見の反映、導入機能、配置部局、階層構成等の検討
調整中	第7回委員会	・事業スケジュール、施設計画、事業手法、管理・運営方針、財政計画の検討
調整中	第8回委員会	・現計画の見直し

※ 現時点での想定する検討スケジュールであり、今後、委員のみなさまの意見等により変更する可能性があります。
※ 会議の内容により、書面開催とさせていただく場合があります。